体験教育

編集／体験教育編集委員会
発行／学校法人　明星学苑
東京都府中市栄町一－一
☎〇四二(三六八)五一一一
制作／信濃印刷㈱

目次

幼稚園
新たな気づきや発見と出会う『めばえの時間』　2
年少組　2
年中組　3
年長組　4

小学校
一年生　秋を探して　5
二年生　くぬぎの時間　5
三年生　校外学習　6
四年生　秋の学校　6
五年生　実りの秋　7
六年生　鎌倉　校外学習　7
明星祭　8

中学・高等学校
素直さと積極性で、異文化を楽しむ
中高一貫一学年主任　別府　和哉　9
大田原宿泊研修　一貫一学年二組　齊藤　全　9
大田原宿泊研修　一貫一学年五組　髙柳　咲　9
(全力)×(体験)＝(成長)
中高一貫二学年主任　佐藤　育義　10
100周年記念体育祭
一貫二学年一組　伯井　健人　10
職業体験　一貫二学年三組　犬山由紀子　10
研修旅行(Sクラス)
一貫二学年四組　栗本　理央　11
一貫一期生としての自覚と責任　そして誇り　11
中高一貫三学年主任　佐藤　誠司　11
中学体育祭　一貫三学年五組　木谷　充希　11
みんなと作った明星祭
一貫三学年四組　北島　慎也　12
2度目のハートグローバルに参加して
一貫三学年二組　井戸坂遥理　12
総合クラス研修旅行
一貫三学年三組　川上　綾音　12
特選クラス研修旅行
一貫三学年一組　和田　結花　13
2学期高1本科の體験
高校一年本科学年主任　八幡　幸司　13
記念式典・明星祭
高校二年本科学年主任　一之瀬　繁　14
明星高校・明星学苑での学校・学苑生活
高校三年本科学年主任　中林　孝光　15
明星高校で過ごした3年間
高校3年7組　小松　千春　15
明星学苑で過ごした15年間
高校3年7組　野澤　正大　16
MGSの取り組み
高校MGS学年主任　高木　保欣　16

新たな気づきや発見と出会う『めばえの時間』

２０２３年度より明星幼稚園のカリキュラムとして『めばえの時間』が本格的に始動しました。

全ての園児一人ひとりが、様々な活動の中で、一つでも多くの「好き」を見つけ、自分らしい未来へ繋げる健やかな成長を大切にしていく活動です。また、この活動を通し、「コミュニケーション能力」「好奇心」「感性」を養い、子どもたちの自己肯定感を高めることをねらいとしています。

その中の活動の一つとして、夏休み中に、「下町ロケット」のモデルとも言われている、北海道の㈱植松電機の教育活動の一つ、「ロケット教室」を年長組親子対象で行いました。

小型エンジンを搭載したロケットを、親子で制作し、世界に一つしかない、自分だけのロケットを完成させ、実際に中高のグラウンドで打ち上げました。子どもたちの大きな未来への自信や夢に繋がり、興味を広げ、心動く体験になりました。

また、10月には年少組を対象とし、『一般財団法人１００万人のクラシックライブ』のヴァイオリニストとピアニストの方々をお迎えして、各保育室で演奏会を行いました。

間近に生の演奏を聴き、ヴァイオリンとピアノの演奏に合わせて、カスタネットや鈴の音でリズムを取り、自分の表現を楽しみ、豊かな感性を育む貴重な時間となりました。

臨床美術専門の講師による『わくわくパレット』では、学年ごとに異なるアートプログラムを行い、自分の表現を楽しみ、お友だちの作品を見ることで、お互いの創造力や個性を認め合う活動となりました。

今後も子どもたち一人ひとりが、自信を持ってチャレンジできる環境を作り、様々な活動の中で新たな発見や気付きを一つでも多く体験できるよう、充実したプログラムを実践していきます。

年少組

「どっちが重いかな？」（重さ比べ）

影って不思議だね！（日時計）

「どんな形や大きさかな？」（ほうれん草の種植え）

一人ひとりの作品を褒めていただきました！（わくわくパレット）

ヴァイオリンとピアノの生演奏に聴き入っています！（100万人のクラシックライブ）

年中組

消防車に興味津々！

稲刈りをしました
「大きくなったかな？」

みんなで力を合わせて
頑張れ!!

かけっこでは力強い走り
を見せてくれました！

敬老はがきの投函
をしました！

運動会ではパラバルーン
で素敵な技をたくさん見
せてくれました！

さすが年長さん！力強い鳴子の演技を見せてくれました

しおりを見ながら、遠足までわくわくしていました

年長組

ルールのあるゲームを楽しんでいます

カを合わせダイナミックに水を使って川を作りました

世界に一つだけのロケットが完成しました！

英語あそびでハロウィン！

1年 秋を探して

十月三十日（月）、一年生は、お鷹の道及び武蔵国分寺公園へ行ってきました。

前回は雨天のため中止になりましたので、一年生にとっては、初めての日帰りの校外学習でした。行きも帰りも公園の中でもたくさん歩いた分、発見や気づきもたくさんありました。

★お鷹の道にて

「川がある！」「小さい魚いるよ！」「水が冷たい！」「ホタルのすむ川って看板に書いてある。」

お鷹の道は、国分寺崖線からの湧き水の流れに沿って作られた道です。きれいな湧き水の川では、小さい魚やアメンボなどを見ることができました。

また、『カワニナをとらないで』という看板を見つけている子もいました。カワニナはホタルの幼虫の餌となる貝ですが、子どもたちは姿形もわからないため、その場では見つけることはできませんでした。

後日、カワニナについて調べて、実際に捕まえてきて見せてくれた子がいました。不思議に思ったことを調べたり、みんなと共有したり、探究学習の素地が育ってきています。

★タブレットを使って

武蔵国分寺公園では、グループで秋を探す、ネイチャービンゴを行いました。今回は、グループごとにタブレットを一台持ち、見つけたものの写真を撮って、ビンゴに貼り付けます。使い方は、事前に練習してあったので、問題なく使いこなしていました。

「イチョウの木、発見！」「木の実はどこにあるのかな？」「鳥の鳴き声、聞こえる！」「花はもう見つけた？」「キンモクセイは、あったよ！」

「次は、写真を撮る人を交代しよう。」

グループの中で相談し合ったり、グループ同士で情報交換したり、グループ活動も上手に行うことができました。

グループの集合写真を撮るというビンゴの課題がありましたが、誰かに撮ってもらったり、自撮りをしたりするだけでなく、タブレットを置いてセルフタイマーで撮っているグループもありました。小さなことですが、そこに話し合いが生まれ、工夫がありました。

学校とは違う場所でも、学んだことを生かしながら、更なる学びへとつなげている姿に、成長を感じられた一日でした。

（文責　一年担任）

二年生 くぬぎの時間

くぬぎの時間では、明星学苑が大切にしている「体験教育」を体現する時間として、毎週様々な体験を通した発見や学びを大切にしながら活動しています。

十月に行った活動では、低学年理科の要素も含めて「物の溶け方」の実験を行いました。塩、角砂糖、氷砂糖、入浴剤、油、石鹸が、それぞれ水に溶けるかどうか、予想を立て、実験を行いました。中には、溶けるという意見と溶けないという意見が半々になっているものもあり、実際に確かめてみる時間に、息を飲みながらじっと観察している子が多くいました。予想に反して、溶けるものも多く、驚きの声も挙がった実験となりました。

また、他教科との合科活動も行われました。今回は、国語とくぬぎの時間の合科的な活動として、「秋のおもちゃ作り」と題し、おもちゃを作るにあたって、作り方の説明を国語の教科書にある単元「作ってあそぼう」を見ながら、順序を表す言葉（まず・つぎに・それから・さいごに）を使い、子どもたちが作ろうとしているおもちゃの作り方を作成していきました。どんな順序で作ればいいかが分かり、実際に作った時にもスムーズに作ることができました。

校舎の周りにある落ち葉や落ち枝、どんぐりや松ぼっくりなどを拾う際には、木の葉の色が赤やオレンジなどに変化している様子に目を向けて、秋を感じながら材料を見つけている様子が多く見られました。その後、事前に用意した紙コップやペットボトル、タコ糸などを組み合わせて秋のおもちゃを作り、楽しんで活動することができました。

（文責　二年担任）

三年生　校外学習

社会の学習では、自分たちが抱いた疑問から学習課題を設定し学習を進めています。「農家の仕事」では、スーパーマーケット（以下、スーパー）の学習を振り返ることから始まりました。「見学に行ったスーパーにはどんな野菜が売っていたかな。」という言葉から、野菜の種類や産地に着目した子どもたち。色々な種類の野菜や果物が、国内外から輸入され陳列されていたことを思い出していました。そこで「色々なところで採れるけど東京都産ってないよね。」と投げかけると意見が分かれました。クラスによっては半分以上の子どもが「東京都産はない。」という意見でした。ここから、子どもたちは「東京で野菜を育てているのか。」「府中市ではどんなものが採れるのか。」「農家の人はどうやって育てているのか。」ということに目を向け、「農家の仕事は一体どんなことをしているのだろうか。」という学習課題を設定していきました。

社会の学習で重要なことは、学習課題を決定した後にどうやって解決するかということです。スーパーのときに「自ら現地に行き調査する」という学習をしていたので、今回も子どもたちからは自然と現地に行って調査したいという声が上がりました。

【農家見学】

農家見学では、在校生で農家を営んでいらっしゃる保護者の方にご協力いただき、農作物の育て方や一日の仕事の流れについてのお話を伺いました。農薬を使わない栽培方法の難しさや苦労、その工夫についてお話いただき、子どもたちが一語一句メモをしている姿が印象的でした。見学から戻り、クラスで情報共有をした後は新聞にまとめる活動を行いました。新聞づくりはこれで三回目。だんだんと見やすい新聞づくりができてきました。

【府中市郷土の森博物館見学】

十月の校外学習は、府中市郷土の森博物館に行ってきました。ここでは、今は使われていない昔のもの（建物、生活用品、学校用品など）や府中市の移りかわりを学習してきました。授業で今と昔の電話について話すと、「ダイヤルをまわすんだよ。」「ボタンもあったよ。」とテレビや博物館で見たり、本で読んだりした知識を話してくれました。教科書には昔のアイロンやテレビ、洗濯機など子どもたちが知らない情報もあり、子どもたちは調べたい気持ちに溢れた状態で校外学習に参加しました。

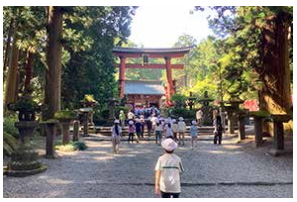
郷土の森博物館では、実際に目でみるだけでなく、石臼でお米を米粉にしたり、手にとって触ったりすることができました。すでに知っているものであっても、体験は子どもたちの心を大きく動かしていたのは一目瞭然でした。昔の小学校の床の冷たさやにおい、階段のゆがみや、つるつるすべる廊下など、五感を通して得る情報は子どもたちにとって大切な学習であることを改めて感じる時間でした。

これからも体験を通して子どもたちの学習意欲をかきたて、どの教科でも子どもの知的探究心を深めていきたいと思います。

（文責　三年担任）

四年生　秋の学校

九月二十八日（木）から一泊二日で、河口湖方面にて宿泊学習を行いました。

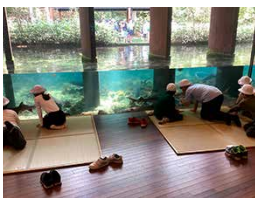


一日目は、北口本宮富士浅間神社を訪れました。お参り前のお清めの仕方や参拝の仕方を教わりました。二日間の天候や、安全に過ごせるようにとお参りして、富士山五合目のハイキングへと向かいました。かつて三回以上登頂した者にだけ許されたという修行の道、御中道を進んでいくと、森林限界であるため草木の生えない山頂附近が見え、眼下には樹海や河口湖が広がり、天地の境目であることが感じられました。

夜は、湖畔でキャンプファイヤーを行い、火の神から「信頼の火」「友情の火」「希望の火」をいただきました。みんなの輪の中で、燃える炎を見ながら、歌ったり踊ったり、楽しいひと時を過ごしました。

二日目は、国の天然記念物であり、世界文化遺産にも登録された忍野八海へ行きました。グループ毎に時間とルートを決めて見学をスタート。様々な条件が重なってできた神秘の遊水池を見学することができ、自然の偉大さを肌で感じることができました。

その後、さかな公園森の学習館、および湧水の里水族館を見学しました。どちらも魅力満載の展示内容で、時間が足りないほど真剣に見学していました。



この宿泊学習を通して、自然の力、美しさ、そして何よりも、友達との絆が深まったことを実感することができました。お世話になった方々への感謝の気持ちをしっかり刻み、これからの学校生活にいかしていきたいと思います。

（文責　四年担任）

五年生　実りの秋

【稲刈り】

今年の猛暑で収穫できるか心配でしたが、九月二十五日に稲刈りが無事に行われました。六月の田植えから三か月半、農家の佐藤さんにご指導いただきながら育てた稲は、予想以上にずっしりと実りました。

初めて使う鎌におっかなびっくりの子どもたちでしたが、「ひと束にこんなに実がつくんだ。」「これからは一粒一粒大事に味わって食べます。」といった声が聞こえ、農家の方々のご苦労を肌で感じることができました。

【小山銀次郎さん来校】

探究学習に取り組む中、今、探究を世の中でしている職業はインフルエンサーなのではないか。「日本ストリートダンススタジオ協会」の紹介でSNSにて発信をしている「小山銀次郎」さんをお招きし、まだ見ぬ世界をどう切り開いていくのか、お話を伺いました。

出会って最初にダンスのレッスン。銀次郎さんの動きを一生懸命まねてあっという間に撮影へ。角度や映像を何度も確認する姿に、SNSの世界の大変さを感じました。撮影した姿は後日、各種SNSに発信されるのを待ち遠しく思いながら、仕事に対する想いを聞きました。この仕事は「自由。」だからこそやりがいもあるし、試行錯誤の繰り返し、それはまさに子どもたちの探究学習にも通じるお話でした。常に心掛けていることは、自分の作品に自信を持ち、だれよりもよく調べ、特に一番大切なのは素直な心でアドバイスなどを受け入れること、とお話ししてくださいました。

最後に子どもたちから質問がたくさん飛び交いました。

（文責　五年担任）

六年生　鎌倉　校外学習

九月二十一日（木）、六年生は、鎌倉校外学習に行ってきました。京都・奈良への修学旅行を見据え、これまでに経験したことのない形式での校外学習となりました。社会科の歴史の授業で学習した鎌倉の街や史跡を、自分たちで行動計画を立てて見学しました。

当日は、新宿駅に現地集合。これも、修学旅行で東京駅に現地集合するための予行練習です。新宿駅から鎌倉駅までは全員で移動しましたが、鎌倉では、班別行動。北鎌倉の円覚寺、鶴岡八幡宮、長谷寺などなど、時間をかけて自分たちで計画したルートを、友達と協力して回りました。

昼食場所に集合してくる児童の顔は充実したものでした。ここからはクラスごとに高徳院の国宝大仏「阿弥陀如来坐像」を見学しました。その大きさに圧倒されていました。最後は、鎌倉駅に戻り、小町通りでお土産を購入。これも初めての経験でした。児童は終始楽しそうでした。

【児童の感想より】

・とても楽しかったけど、それ以上にとても緊張しました。いくら頑張って計画を練っていても、当日になると思ったようにいかない、ということがわかりました。修学旅行の時の練習になったのではないかな、と思います。

・この道を何分くらいでいけるか予測して、どれくらい使ったら集合時間に間に合うかということを自分たちで計画するという経験ができました。新しい経験ができて楽しかったです。

今までの校外学習ではできなかったことが経験できたようです。一人ひとり新しい力になってくれたことと思います。自分たちで一から計画することの楽しさ、みんなで協力して達成することの良さ、などなど、しっかりとこちらの意図を理解してくれたことが嬉しいです。時間を上手に使えなかったり、思わぬハプニングがあったり、うるさくなってしまったり。失敗から学んで次に生かそうとする態度も大切な学びの一つです。修学旅行に向けて、またみんなで一緒に考えていきます。

（文責　六年担任）

明星祭

十月七日（土）、八日（日）の二日間、明星祭が開催されました。

一日目は、府中の森芸術劇場のどりーむホールで明星学苑吹奏楽団による演奏や元「がまるちょば」の一人、ケッチさんによるパントマイム公演のステージ鑑賞を行いました。声が出ていなくても動きだけで何を伝えたいのかがよく分かり、会場は、歓声と笑い声で終始包まれていました。

二日目は、小学校での開催で、学苑内を回って手がかりを集め、問題を解いていく「謎解きイベント」や「わたしの自慢コンテスト」「ビンゴ大会」「フェイスペイント」、一輪車・ダンス、和太鼓クラブの発表など、明星学苑創立100周年記念に合わせ、多くのイベントを開催しました。PTAさんによる子どもバザーや缶バッジ作り、ゲームコーナー（巨大ボーリング、モンスターシェンガ、バスケットボールビンゴ、ドキドキガラポン）、プラバンや割りばし鉄砲の販売なども大盛況で、多くの人が楽しむことができました。

今年は、児童だけの参加ではなく、保護者の方、地域の方、一般の方にも自由に参加、ご来場いただきました。たくさんの保護者の皆様のご協力により、無事、明星祭を開催することができましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責　明星祭担当）

プロの方による
フェイスペイント

ゲームコーナー、缶バッジ作り

～飲食販売～
キッチンカー３台
ジェノワーズさん
あさ乃商店さん

ひらめきで謎解き！

一人ひとりが輝く星★

子どもバザー

素直さと積極性で、異文化を楽しむ

中高一貫一学年主任 別府 和哉

一貫1年では11月初旬に大田原宿泊研修で農泊・農業体験をおこないました。生徒たちは意欲的に取り組み、さまざまな活動をしてきました。生徒代表として2人の感想を紹介したいと思います。

大田原宿泊研修

一貫一学年二組 齊藤 全

私達は、民泊に行くことが最初は不安でした。しかし農家の方々が親戚のように接してくださったのでとても安心しました。大田原の民泊では、色々なことに挑戦しました。例えば、落花生の殻を剝いたり、さつまいも堀りです。落花生の殻むきは、普段剝くのとは違って沢山の殻を剝いたのでとても良い経験になりました。さつま芋掘りは、掘っても掘ってもさつまいもがあったので、掘るのにたいへん苦戦しましたが、友達と協力してできたので楽しかったです。そして、自分たちのご飯でカレーやパスタや豚カツなど色々なものを作りました。初めは何からやっていいのか分からなかったのですが、農家の方が丁寧に教えてくださったので美味しいご飯を作ることができました。私たちは今回色々な事を学びました。例えば、人と協力することの大切さ、私達が普段食べている野菜がどのように育てられているか、沢山の人たちが大切に育てていることなどです。この貴重な体験を今後の生活で役立てていきたいと思います。太田原の農家の方々ありがとうございました。

大田原宿泊研修

一貫一学年五組 髙柳 咲

私は農家体験で大根や人参、茄子を収穫したり落花生の殻剝きなどをしました。農作業はとても大変でしたが、楽しかったです。初日にはさつまいもを掘りました。1本のつたから5、6個のさつまいもがたくさん取れました。大きなさつまいももあれば小さなさつまいももありました。鈴木さんは料理する際に残った小さな人参や形の変わった人参などをジュースにしてあまり物を無くすなどのSDGsに取り組んでいました。2日目には鈴木さんは市内散策で那須ファームヴィレッジ、別名「大田原の北海道」という場所と道の駅に連れて行ってくれました。那須ファームヴィレッジはとても広い草原がありとても綺麗な景色でとても居心地の良い場所でした。道の駅那須与一の郷では那須与一の昔話をからくり人形で再現している劇を見ました。さらに大田原は東京とは違い高い建物があまりないので、夕焼けや星などの景色がとても綺麗でした。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

成長のためには、自分にとって慣れ親しんだ快適な環境に閉じこもろうとせず、そこから一歩踏み出すことが必要不可欠です。他者との協調や、異文化に飛び込むことが、その具体的な体験となるでしょう。スマートフォンも手放し、初めて会う方のお家でお世話になる。虫が多かったり、農作業をしたり…、これだけ聞くと「快適でなさそう」「不便そう」「大変そう」という印象も最初はあったかもしれません。しかし、実際に農泊・農業体験を終えてみると「楽しかった」という声が圧倒的でした。これはどういうことでしょうか？「体験してみないとわからないことがある」ということです。よく「視野を広げる」と言いますが、多くのものをただ見ても、楽しそうなことだけやっていても、視野が広がったことにはなりません。事後的に楽しさを知ること、「事後的にしか良さがわからないもの」を体験すること、これが、「現在の自分の認識が全てでも完璧でもない」という

大田原宿泊研修

（全力）×（体験）＝（成長）

中高一貫二学年主任　**佐藤　育義**

一貫2年生は、2学期に「100周年記念明星祭・体育祭」、「職場体験」、「研修旅行」と実に様々な行事を全力で行ってきました。大活躍した3名の感想文を紹介致します。

当たり前のことを実感し、視野を広げる機会となります。事前学習の段階から、「食わず嫌い」は良くない、すすめられたらまずは何でもやってみる姿勢が大切だ、というお話をしてきました。未知のものにも素直に、積極的に飛び込んでみる。この姿勢が何より大事です。そして、しおりに記入された日誌や写真の笑顔を見ると、また、お世話になった農家の方々の声を聞くと、生徒の皆さんはそれをよく実践してくれていたようで、嬉しく、とても誇らしく感じました。

100周年記念体育祭

一貫二学年一組　**伯井　健人**

午前中はクラス別種目で盛り上がりました。1つ目は因幡の白兎でした。因幡の白兎はクラスの団結が必須です。予行練習では1位だったので自信満々で挑みました。一致団結して頑張りましたが、予行練習通りには上手くいかずに焦ってしまって、結果は3位でした。予定通りにうまくいかないのも体育祭、それも運動の面白みだなと思いました。2つ目の競技はクラス対抗リレーでした。結果は高順位ではなかったけれど、みんなで頑張れてよかったです。

午後は色別競技となり、僕は緑組でした。綱奪いや大縄では緑組が1位だったのもあり、順調に他の競技も勝ち進んで、総合優勝することができました。応援団もすごくかっこよくて、みんなで団結して声を出すのは楽しかったです。

他にも、大玉送りでギネスに挑戦したり、借り物競走や部活動対抗リレーなど、去年やっていなかったことが盛りだくさんでした。どれもとても楽しくて一生の思い出になった体育祭でした。

体育祭　大玉送り

職業体験

一貫二学年三組　**犬山由紀子**

1日目に行った株式会社プラックスでは、基板製造や基盤のデザイン体験をしました。基盤製造では、基盤に細かい部品を専用の機械でくっつけるという作業を行いました。部品は一つひとつが非常に小さく、実際に手に乗せてみたところ、お米の粒よりも小さかったです。基盤に物を載せる機械には、認証機能がついており、部品を設置するときに違う部品が設定されていると自動的に止まり、機械を操縦している人に知らせます。そのため、間違えることなく基盤を作ることができるそうです。そして、デザイン体験の作業では、会社の方に操作方法を教わりながら実際にパソコンを使って回路図の設計を行いました。4層構造の基盤に回路を正しい部品同士を繋ぎました。回路同士が接触したり、交差しないようにするために何度も微調整を行なっていました。先ほどの作業も難しいものでしたが、一番難しかったのは、層を変えたから別の層の回路に接触しているはずなのに、エラーコードが出てしまって、なかなか次に進む事が出来なかったことです。それでも調節して上手く行った時にはとても嬉しくて、達成感と共に印象に残りました。

2日目のアイアンストライカーズ社会労務士法人では、最初に社労士についての授業、次に給与計算を行いました。社労士についての授業では、年金のことや保険証の種類、社労士のすることなどを教わりました。そこで保険証に種類があると初めて知りました。また、給与計算ではパソコンを使って専用のアプリで実際に計算しました。数字を入力する時に一つでも間違えてしまうと正しい数を出すことが出来ないため、とても大変でした。

この2日間、私は新たにたくさんのことを学びました。この経験を活かして、将来の役に立てたいと思います。

研修旅行（Sクラス）

一貫二学年四組　栗本　理央

1日目の薪割り体験はオノで斬り、ナタで割り、火をおこすという3つのことに挑戦しました。これが本当に大変で疲れました。この3つの体験をして電気のなかった時代はこうして薪を切るところから始め、火をおこさなければ生活はできなかったのだなと痛感しました。今の時代はとても便利になっていて、私たちが日頃簡単に使っているように見える電気は当たり前のものではないのだと感じました。この環境に感謝しなければいけないなと思いました。

2日目の午前は「きいぱす」を訪問し、エネルギーについて学びました。私は省エネのグループで、実際に自分たちの生活で使えるような知識を得ることができました。太陽光発電の活用法、電力をあまり使わない電化製品の使用方法などを学びました。午後はチーム毎にその日に学んだことを共有し合い、模造紙にまとめました。現地での説明や他の班の発表を受けて知ったことの中で、自分たちが今すぐにでもできることがたくさんあったので、実際に試してみたいと思います。

3日目はエルゴ大会とボート体験をしました。エルゴ大会の結果は全体4位で悔しかったのですが、楽しくできてとても良かったです。ボート体験では、最初は全然進んでくれなかったのですが、みんなで息を合わせ、声を掛け合っていたら、だんだんまっすぐ進むようになってきました。誰かのオールが引っかかってしまったら、すぐにみんなが止めることができて、チームが一致団結しているなと思いました。最後の方はとても早く進めることができ、嬉しかったです。

民宿の方々もとても優しく、よくしてくれたので楽しい2泊3日になりました。今回の研修旅行は学校にいるだけでは絶対にわからないことがたくさん学べたと思います。また、この研修旅行にたくさんの方々が協力してくださって成り立っていたので、色んな人に感謝したいです。日常生活に戻っても学んだことを活かして生活していきます。

ボート体験

一貫一期生としての自覚と責任　そして誇り

中高一貫三学年主任　佐藤　誠司

一貫一期生の3年生は2年間様々な体験、経験を積んできました。特に「目に見えない学力」を重視し人間性豊かな生徒の育成に励んできました。様々な行事での活躍により自覚と責任、そして学校への誇りが出てきたことをうれしく思います。

中学体育祭

一貫三学年五組　木谷　充希

今年は、中学校生活最後の体育祭でした。僕は学級委員長や応援団として体育祭に関わりました。その中で二つの気づきを得ました。

一つ目は、クラスの成長です。3年生は、4人5脚とクラス対抗リレーに出場し、どちらも優勝することができました。それは、体育祭実行委員中心に4人5脚の組み合わせや走順を考え、全員が団結したからです。それまでの僕たちには団結力がありませんでした。しかし、この体育祭を通して絆ができました。

二つ目は自分たちの力でつくりあげることの素晴らしさです。僕は応援団と集団演技を通して一からつくりあげることの大変さを知りました。応援団では構成を考え、集団演技ではどう楽しむかを模索しました。その中で一人一人がいい体育祭をつくりあげようと工夫し、最高の思い出にすることができました。大変だったからこそ、最後の体育祭を楽しむことができました。

体育祭の様子

この気づきを経て、残りの行事も成功させたいです。

みんなと作った明星祭

一貫三学年四組　北島　慎也

私は今年初めて学年推進委員に立候補し、同じ学年の仲間達と共に楽しい学校生活を送りたいと思い活動してきました。今まで研修旅行や体育祭など様々な行事があり、その中でも1番記憶に残っているのは明星祭です。明星祭は明星学苑創立100周年だったこともあり、今まで以上にどの学年も気合いを入れて取り組んでいました。

私達学年推進委員も6月末から明星祭について話し合いを始め、9月の前半から活動を活発化させていきました。

明星祭の様子

明星祭に向けての準備ではレイアウトや買い出し、机・パネルの運搬などがあり、その中でも最も大変だった作業は研修旅行で長崎に行った時に見た眼鏡橋のオブジェの作成です。作るのにすごく時間が掛かり遅くまで残ることも多々ありました。

ですが、同学年の仲間達も手伝ってくれたことによってスムーズに準備が進められて予定よりも早く準備を整えることが出来ました。みんなと作り上げた明星祭はずっと頭の中に残り続ける私の思い出です。

2度目のハートグローバルに参加して

一貫三学年二組　井戸坂遥理

今年の2月に初めてハートグローバルを体験しました。初めてだったのでとても興味深い一方私はそれほど人前で立って披露できるような人ではないので、やり遂げられるか心配な点もありました。ハートグローバルの一番の良いところ、それは恥ずかしさを消して自分らしさを出せるところだと思います。日本にいながら海外の雰囲気を味わうことができ、わずか3日間でみんなでパフォーマンスを作り上げるプログラムです。その3日間でキャストに英語でダンスや歌を習ったりチームの仲を深めるためにゲームをしてみたり、英語がわからなくても場の雰囲気でとても楽しめました。2月には私は1人でパフォーマンスする場面がありました。最初はとても緊張して小さい動きしかできませんでしたが、キャストの人たちの元気な励ましの言葉で恥ずかしさを消して披露することができました。大勢の前で歌やダンスを披露する機会があまりなかったので自分自身の殻から抜け出た気がしました。

今年の明星祭でも3日間のプログラムを行いました。今回は個人の発表はありませんでしたが、以前の経験から最前列で踊るようにしました。すると観客を目の前にしても緊張せずに自分を出し切ることができました。堂々とパフォーマンスをし、自分に自信をもつことができる、そんな体験ができるハートグローバルが私はとても大好きです。

総合クラス研修旅行

一貫三学年三組　川上　綾音

研修旅行実行委員の委員長として、研修旅行が近くなるにつれて集まりも多くなり、ホテルで泊まる室長たちの話し合いや、その日の行動確認など綿密に話し合ってきました。苦労することも多かったのですが、その分楽しみな研修旅行が待ってる!!と思うと全く大変とは思いませんでした。

実際に研修旅行に行って楽しかったことはペーロン体験です。長崎ならではの体験でクラスのみんなとリズムを合わせるなどと協力をしなければ進まないというスリリングがありました。何回か練習してクラスで対決したのですが、私たちのクラスは最下位でした。それでも団結力はより高まったと思うし、新しいクラスになったばかりの雰囲気と比べてとてもみんな楽しそうでした。

研修旅行の様子

長崎だからこそ味わえることや自然の綺麗さなど沢山学べることがありました。実際私は現地ではバタバタしすぎて行動表と同じように動けないことが時々あったりしたのです

が研修旅行実行委員長として臨機応変に対応できたと思います。とても記憶に残った研修旅行でした。

特選クラス研修旅行

一貫三学年一組　和田　結花

一貫三年一組は研修旅行で北海道の浦幌町と札幌市に行きました。浦幌町では、うらほろ樂舎という町おこし行っている民間の方々と農家の方々にお世話になりました。

札幌市では、北海道大学の方々との交流と市内観光を行いました。

このなかで特に印象に残っている活動が二日目に行った全員でのカレー作りです。

ただのカレー作りではなく、かまど作り、火おこし、野菜の収穫などと一から調理をしなくてはいけませんでした。さらに野菜から出る水分だけに頼った無水カレーで、普通のカレー作りに比べて、とても難しいものでした。

研修旅行の様子

ですが、私の班のメンバーは自然と役割ごとに分かれて、自分にできることを全力で遂行することができました。それだけではなく、野菜を収穫し過ぎてしまっても他の班に分けたり、野菜が硬くて切れなかったら力のある人が代わりに切ったりと、自分のことだけではなく仲間のために行動することができていました。

その結果、カレー作りは成功して記憶に残る体験となりました。

私は今回の研修旅行で一人で達成するには難しいことでも仲間と力を合わせれば達成することができるという、仲間と協力することの大切さを体験を通して実感することができました。

これからも私たちには一人では達成できないことが必ず現れると思います。今回の研修旅行で学んだ仲間と協力することの大切さを思い出し、どんなことでも乗り越えていける、強い一貫三年生になりたいです。

2学期高1本科の體験

高校一年本科学年主任　八幡　幸司

2学期「高1本科の體験」（高1本科は学年方針「100年目の體験教育への挑戦」として本校の教育方針の一つである体験教育をあえて旧字体の「體」として表記し、〝骨（人生）を豊かにする活動〟としての「體験」をすることを目標に掲げています。）の報告です。

2学期は100周年の記念式典への参加や明星祭という学校行事を中心とした「體験」に取り組んできました。特に運営委員や実行委員、部活動やクラスでの式典や明星祭への関わりは、学校全体を巻き込んだまたは卒業生や外部の方々に開かれた活動となりました。特に100周年の入学生として迎えた式典では、その歴史と多くの方々の思いを感じ、これからの学校生活の糧となる経験となったように思います。

学年の取り組みとしては1学期から取り組んでいる「総合的な探究の時間」の発展した形として「先生ゼミ」として探究を深めてきました。フェアトレード探究（カフェ、聖地巡礼・こくベジ、商品開発）／地域のコミュニティ、子育て、教育に関すること／宇宙に関すること／歴史・考古学／ソーシャルビジネス、経営、アントレプレナーシップ／スポーツに関すること／世界のこと（多文化共生・言語文化）、映画のこ

明星大学人文学部　毛利ゼミ・高2学推共同
フェアトレードCafe

学推・探究メンバー
フェアトレード商品物販

と／教育（大学・こども・子育て）／プログラミングに関すること／という多種多様なテーマを学年の先生方がゼミ形式として探究してきました。特にSDGsの学習をより身近にまたは広がりを持たせることを意識し、ローカル探究としての地域学「国・府学」とグローバル探究として「フェアトレード」というキーワードを融合させたグローカル探究をそれぞれのテーマで探究していきました。探究の成果が形になったものとしては明星祭での明星大学人文学部　毛利ゼミ・高2学推共同「フェアトレードCafe」や学推・探究メンバー「フェアトレード商品物販」などの活動です。これらの活動は今後、「府中市を高校生の力でフェアトレードタウンに」をスローガンに府中市での活動（11月には府中協働祭に参加）として広がり発展しています。その他にも2学期学年の保護者会で実施された「フードドライブ」（ご家庭で余っている食品を持ち寄っていただき、それを必要としている地域の福祉団体や施設フードバンク団体に寄付する活動のことです）など多種多様なゼミから探究が展開されています。

地域の祭ボランティア参加

また地域探究として地域との関わりが2学期にはさらに活発となりました。コロナ禍で延期されていた地域のお祭りへのボランティア参加をはじめ、国分寺ぶんぶんウォーク2023スタッフボランティアなどです。

2学期のこれらの「體験」を通して100年の歴史や思いと同時にグローカルな視野を持ち、新たな社会や時代を生き抜く力を養っていくことを高1本科はこれからも「100年目の體験教育への挑戦」として実施していきます。

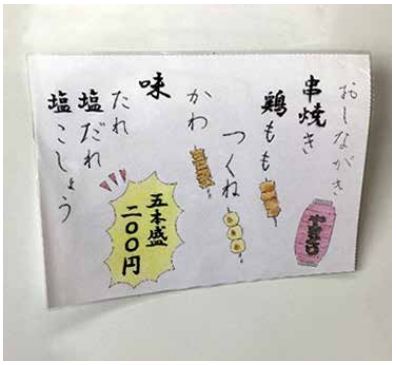
記念式典・明星祭

高校二年本科学年主任　**一之瀬　繁**

本科高2学年は、100周年記念式典において一貫3年と共にハートグローバルを、100周年記念明星祭においては屋台村を実施しました。11月4日（水）は終日総合体育館においてキャストとワークショップを行いました。午前中は2月に実施したハートグローバルワンデイの焼き直しだったため、スムーズな滑り出しとなりました。午後は彼らにとって初めての歌や踊りでしたが、午前中の盛り上がりのままハイテンションでワークショップを終了しました。11月5日（木）は午後から府中芸術の森ドリームホールにてリハーサルを行いました。次の日の本番を前に、キャストからは生徒に厳しい指摘もあがり、生徒も今自分たちが何をするべきなのか考える時間となりました。本番当日のキャストとのショーは圧巻でした。いつもなら前に出てくるタイプではない生徒も積極的に参加し、思わず眼がしらが熱くなってしまいました。参加学年としては最高学年であり、学校での明星祭は1日に短縮、色々な感情が渦巻く中、やらせてもらって本当に良かったと思えた瞬間でした。

記念式典・明星祭の様子

府中校開催の明星祭が1日開催となったため、コロナ前に実施していた記念館前の屋台村ではなく、校舎3階教室と3階テラスを利用した屋台村【物販】をハートグローバルの翌日11月7日（土）に行いました。



記念式典・明星祭の様子

明星高校・明星学苑での学校・学苑生活

高校三年本科学年主任　中林　孝光

高校3年本科クラスは個々の進路実現に向けて頑張ってきました。そして、間もなく卒業を迎えようとしています。今回は明星高校・明星学苑で充実した学校・学苑生活を送り大きく成長した2人に、学年生徒を代表して振り返りをしてもらいましたのでぜひお読みください。

1日開催と来場者数が読めなかった事もあり、各クラス売れ残りを警戒して仕入れていたため。ほぼすべてのクラスの物販が午前中に売り切れてしまう事態となりました。余りの忙しさに、決めていたクラスのシフトなど関係なく、生徒は懸命に販売をして、コロナ後の明星祭を堪能していました。明星大学人文学部とのコラボでは学年推進委員を中心として「フェアトレードカフェ」を行い、フェアトレードの認知度を少しでも上げるべく取り組んでいました。目まぐるしい一週間ではありましたが、生徒にとって記憶に残る100周年記念イベントとなりました。

結果を残すことができました。

もう1つは3年生の体育祭です。高校1・2年生の体育祭は新型コロナウイルスの影響もあり、3学年が集まることができなかったり観覧に制限があったりと思い通りの体育祭ができていませんでした。しかし、3年生のときの体育祭は制限もなく、学年が1つとなることができました。特に集団演技では、実行委員が先頭に立って学年を引っ張ってくれたからこそ、本番では3年間の集大成の演技を披露することができ、良い思い出になりました。

この2つの経験から、私は辛いことがあったときに周りに相談することの大切さ、他者をまとめるために自分自身が積極的に行動する主体性、自身の意見だけではなく部員の意見も取り入れる協調性、みんなで1つのことに取り組む充実感を学びました。さらに、行事や授業、部活動といった学校生活全体を通して「健康・真面目・努力」を体現しようとしたことで、自分自身成長できましたし、かけがえのない友達や真摯に指導してくれる先生方に出会うことができました。これらの3年間の高校生活での経験や出会った人を大切にし、今後に繋げていきます。

明星高校で過ごした3年間

高校3年7組　小松　千春

私は明星高校で過ごした3年間の中で印象に残っているものが2つあります。

1つは部活動です。私は2年生から硬式テニス部の副部長として部をまとめる立場になりました。私たちの部は、様々なレベルの部員が一緒に活動していたこともあり、部をまとめることの難しさを実感しました。また、自分の意見を中々言い出せない私は、部員に迷惑をかけることもありましたが、部長や部員のサポートもあり、少しずつ自分自身の意見を伝えられるようになりました。また、練習メニューについても、目標が様々な部員が所属していたため、それぞれに必要な練習メニューが異なっていました。そのため、練習メニューを考える上で私は、自分自身の考えのみを押しつけるのではなく、他の部員の意見を取り入れるように意識していました。そして、部員全員の協力や努力が実を結び、私学の団体戦では東京都5位という

明星学苑で過ごした15年間

高校3年7組　野澤　正大

私は、幼稚園から高校3年生まで明星学苑に通いました。この15年間で私は様々なことを学ぶことができました。

1つ目は皆で力を合わせて成し遂げることの素晴らしさです。私は小学校3年間マーチングバンドに、そして中高6年間吹奏楽部に所属していました。どちらも大人数で一つの音楽を作り上げる部活です。文化祭やコンクールなどの演奏のために息を合わせて1つの音楽を作り出すことはとても難しく、何度も諦めそうになりましたが、周りの仲間達にも支えられて9年間音楽をすることができました。すばらしい仲間達と共に最後まで諦めずに何かを成し遂げるという経験は明星学苑が教えてくれました。

2つ目は礼儀正しくあることや正直であることです。私は明星の特徴である凝念で心を落ち着け、小学校の校訓である「正直な良い子」であることを実践することが今の僕に繋がっていると考えています。小学校という早い段階から人として大切なことを教えていただきました。その経験は受験の面接練習や部活、委員会の場などで非常に活きています。そして明星学苑で身につけることのできた礼儀正しさや正直であることは、卒業した後にもきっと役に立つと考えています。

15年間明星学苑で過ごした時間は私にとって宝物です。私はこれから初めて明星学苑以外の場所に旅立ちますが、明星で学んだことは一生、生きてくると思っています。

MGSの取り組み

高校MGS学年主任　高木　保欣

1年生は7月26日（水）～28日（金）に東京の晴海に宿泊し、グローバル探究セミナーを実施しました。1日目のJAL English Campでは、客室乗務員の方から日本のおもてなしや異文化コミュニケーションについて英語で学び、最後は自分の夢について英語でスピーチしました。夜の講演会では、神田外語大学の柴原智幸先生から英語の学習方法や正しい発音の仕方などを学びました。2日目のTokyoまち探究では、浅草・渋谷・品川などの町を散策する中で初めて知ることが多くありました。3日目の留学生フィールドワークでは、留学生の方と様々な対話を行いました。この宿泊研修を通して、異文化コミュニケーションや異文化理解を学んで実践しただけでなく、日本の魅力を再発見することができたようです。3日間の学びを今後の探究学習に役立ててほしいと思います。

2年生は、8月31日～9月4日で、「過去を知り、現在を考えることにより、未来を生き抜く力をつける」を共通テーマとして、各クラスごとに研修旅行を実施しました。MGクラスは、岡山・香川県（直島・豊島）・大阪方面に行きました。初日に訪れる予定だった犬島は船が欠航してしまい、急遽予定を変更して、岡山のベネッセ本社と倉敷の美観地区を訪れました。2、3日目は予定通りに直島・豊島に行くことができました。常識にとらわれない、多種多様な芸術作品に触れることができて、感性が研ぎ澄まされた2日間になりました。4日目～5日目は関西にて、

MG研修先：香川県直島・関西（大阪）方面

MG研修先：香川県直島・関西（大阪）方面

班別研修として京都に行ったり、関西の食文化に触れたり、東京とは違う「異文化」に触れることができ、学びの多い充実した研修旅行になりました。MSクラスは、大阪、香川県（犬島・豊島・直島）に行きました。初日、2日目の大阪では、東大阪の工場に行き、モノづくりに対する社長の思いやお金の話を聞き、工場見学をしました。日常の学習では知ることのできない、現場の様子がわかり、理系として貴重な体験となりました。3日目～5日目は、犬島・豊島・直島を訪問しました。ほとんどの生徒が今まで芸術にあまり触れてこなかったのですが、ここで芸術に対する新たな視点を得ることができ、芸術を通して、自分と向き合い、未来を考えることができました。現地で「本物」を見て、自分の価値観が広がる有意義な研修旅行になりました。SMGSクラスは、1日目は美しい自然と歴史のある長崎県の離島の1つである対馬を訪れました。

MS研修先：関西（大阪）方面・香川県直島

対馬高校の生徒とともに寺院や歴史館を訪れ、朝鮮と対馬藩の歴史的なつながりを学びました。2日目は対馬が直面している深刻な問題（獣害や海洋漂着ゴミ）について考えました。また、民泊先では郷土料理体験を行いました。3日目は班別で歴史ある長崎の観光地を巡り、満喫することができました。4日目は平和学習の日でした。午前中は平和公園にて原爆の犠牲になられた方々への哀悼の意を表す献花式を行い、平和ガイドの方と被爆遺構を巡り、午後は平和を考えるワークショップを行いました。5日目は佐世保市のハウステンボスで外国人の方と英語でコミュニケーションをとりながら異文化交流をすることができました。今回の研修旅行で対馬・長崎を巡り、離島が抱える問題や核兵器の問題など、現地での体験を通して様々な学びを深めることができました。これらの経験を通じて、社会において自分が果たせる役割は何であるのかを考え、今後の学びにつながっていくことでしょう。

SMG研修先：長崎県（対馬市・長崎市・佐世保市）

3年生は、8月1日（火）～5日（土）、長野県諏訪郡富士見高原で勉強合宿を実施しました。期間中生徒たちは毎日10時間以上の自学を行い、分からない所は教員に質問するという5日間を過ごしました。どの生徒も集中して受験勉強に取り組み、積極的に質問するなどして、科目ごとに具体的な学習方法を明らかにでき、夏以降の受験勉強に向けて得るものの多い体験ができたように思います。